

用語集

	意味
アフォードブル	経済負担を適切に抑えることにより、必要な者がサービスを享受できる状態をいう。
イノベーション	斬新なアイデアから社会に大きな変化をもたらす新たな価値を生み出すこと。
インクルーシブ	障がいの有無や国籍、年齢、性別などに関係なく、違いを認め合い、共生していくことを目指すこと。
ウェルビーイング	身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念。
ウォーカブル	「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成を目指し車中心から人中心の空間に転換すること。
エコロジカルネットワーク	優れた自然環境を有する地域を核として、これらを有機的につなぐことにより、生物の生息・生育空間のつながりや適切な配置を確保する生態系ネットワーク。
エリマネDX	まちづくり活動（エリアマネジメント）へのデジタル技術の導入によるエリマネ高度化を指す。
エネルギーの面的利用	自立分散型エネルギーシステムや地域冷暖房施設等を用いて、一定規模の地区内で電気や熱を効率的に供給したり、複数の地区でエネルギー供給施設を共有しエネルギーを融通し合うなど、一定のエリア内でネットワーク化し「面」全体で最適な設備設計と運用制御を行うこと。
カーボンニュートラル	二酸化炭素の「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすること。
グリーントランスフォーメーション（GX）	化石燃料を基盤としたエネルギー利用から、太陽光や風力などのクリーンエネルギーを中心としたシステムへの転換を通じて、経済社会全体を変革しようとする取り組み（「Green transformation」（グリーントランスフォーメーション）の略）。
交通モード	交通手段、輸送方式のこと。徒歩、自転車、自動車（自家用車など）、タクシー、バス、鉄道などすべての移動手段を指す。
サーキュラーエコノミー（循環経済）	3R（リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源化））の取組による資源循環に加え、資源の投入・消費を抑えつつ、効率的・循環的に資源を利用し、付加価値を生み出すことを図る経済活動のこと。
スマートシティ	デジタル技術を活用し、生活者のQOLやウェルビーイング向上、経済活動の促進、社会課題の解決を図る都市のこと。
ダイバーシティ	人種・性別・嗜好・価値観・信仰などの違いを受け入れ、多様な人材が持つ可能性を発揮させようとする考え方。
地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）	持続可能なインフラメンテナンスの実現に向けて、各地域の将来像に基づき、広域・複数・多分野のインフラを「群」として捉え、総合的かつ多角的な視点から戦略的に地域のインフラをマネジメントするものであり、地方公共団体や事業者がそれぞれ機能的、空間的及び時間的なマネジメントの統合を図るもの。
デジタルツイン	センサーなどから取得したデータをもとに、建物や道路などのインフラ、経済活動、人の流れなど様々なフィジカル空間（現実空間）の要素を、サイバー空間（コンピューターやコンピューターネットワーク上の仮想空間）上に「双子」のように再現したもの。
デジタルトランスフォーメーション（DX）	デジタルで人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること（「Digital transformation」（デジタルトランスフォーメーション）の略）。
デマンド交通	区域を設定し、その区域の移動需要に応じて、運行するバスやタクシー等の交通。
都市再生安全確保計画	都市再生緊急整備協議会が、地域整備方針に基づき、大規模な地震が発生した場合における滞留者等の安全の確保を図るために必要な退避経路、退避施設、備蓄倉庫その他の施設の整備等に関して定めた計画。
ネイチャーポジティブ	生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること。
ネットゼロ	再生可能エネルギーの導入や省エネにより、そもそもの温室効果ガスの排出量を削減するとともに、発生した温室効果ガスを、植林や森林保全活動などの取り組みで吸収・固定することによって、活動全体の排出量が差し引きゼロになっている状態。
パブリックライフ	パブリックスペースで、人々がアクティビティを共有して、顔の見える関係性を築いていくことをいう。

用語集

語句	意味
ラストワンマイル	最寄り駅やバス停と自宅あるいは目的地の間の短距離や特定の敷地内、区域内等比較的狭い範囲内の移動を指す。
レジリエント/レジリエンス	災害や事故などにより致命的な被害を負わない強さと、速やかに回復するしなやかさをもつこと。OECD報告書によると、「レジリエントな都市」とは、持続可能な成長、幸福度、包括的成長を確保するためにショックを吸収し、新しい状況に適応し、自身を変革し、将来のショックやストレスに備える能力を持つ都市である。
3R	リデュース (Reduce)：発生抑制、リユース(Reuse)：再使用、リサイクル(Recycle)：再生利用の3つの頭文字をとったもの。
30by30	2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標。
ICT	情報通信技術のこと（「Information and Communication Technology」の略）。エネルギーの面的な活用の推進や、交通渋滞の緩和など、まちづくりの様々な面でICT を用いた取組が実践されている。
DEI (Diversity, Equity & Inclusion)	「Diversity(多様性)」「Equity(公平性)」「Inclusion(包括性)」の頭文字をとったもの。互いを尊重し個々の能力を活かすだけでなく、状況合わせた機会を提供し、誰もが公平に活躍できる仕組みを作ることで、個人と社会が共に成長していくこと。
MaaS	ICTを活用して交通をクラウド化し、公共交通が否か、またその運営主体にかかわらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念。
MICE	企業等の会議(Meeting)や研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会(Exhibition/Event)など、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。
SDGs	持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) の略称。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。
XR	仮想世界と現実世界を融合させ、新たな体験を創造する技術の総称（「cross reality」または「Extended Reality」の略）。「VR」「AR」「MR」「SR」といった仮想世界と現実を融合させる画像処理技術などが含まれる。
ZEB	快適な室内環境を実現しながら、建物で消費するエネルギーをゼロにすることをめざした建物のこと。
ZEH	外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることをめざした住宅